

自然災害や交通機関の混乱、パンデミックによる外出禁止等により、会社に行けなくて困った方も多くいらっしゃいました。そのような時、「自宅で仕事できれば…」と思われる方も多いのではないのでしょうか？ そうした要望を受け、新たな仕事の仕方として、「テレワーク」が認知されはじめています。

現地での工事が伴う通建業界の方にとっては、あまり有効ではないようにも思われますが、「テレワーク」を支える技術はまさに「情報通信」であり、ソリューションとして「テレワーク」に取り組むこともあり、そういう目で見れば、通建業界の方にとっても把握しておきたい技術や情報であるかもしれません。そこで、今回は「テレワーク」についての現状をご紹介します。

■テレワークとは

「テレワーク(telework)」の「テレ(tele)」とは「遠方の」という意味の接頭辞です(語源は古代ギリシャ語)。teleworkとは「遠く、離れて働く」ということを意味します。テレワークと同様に、「テレ…」のつく言葉は、「テレフォン」、「テレスコープ」、「テレビジョン」などの単語があります。

厚生労働省によると、テレワークとは「情報通信機器(ICT)を活用した、時間と場所にとらわれない働き方のこと」と定義しています。これまでの固定化された「勤務場所」や「勤務時間」での働き方に対して、テレワークは、ICTを活用することによって働く場所や時間にとらわれない働き方ができる仕組みとすることができます。一般的には在宅勤務となります。

■普及率

「2005年時点のテレワーク人口推計(実態調査)」によると、週8時間以上テレワークを行う人が674万人、週8時間未満の人を合わせると

2,521万人となり、労働力人口に占める割合が38.9%という高い値となっています。人数では米国に劣りますが、対労働力人口比率では日本は世界一位です。

普及の背景としては、ブロードバンドやリモートアクセス等の情報通信技術の進歩により、場所を問わず仕事ができる環境が整ってきたことにあります。いまや日本の家庭のブロードバンド率は7割を超えているといわれています。また、ハイスペックPCの価格が下落していることに加え、インターネットVPN、ファイヤーウォールなどセキュリティ技術も向上していることが普及の理由に挙げられます。今後、タブレット端末やスマートフォンの普及、Wi-Fi環境の整備、クラウドサービスの浸透等でさらに普及が加速してゆくと考えられます。

■評価

総務省「テレワーク人口等に関する調査」(平成14年3月)などによると、テレワークを導入している企業の経営者は、「仕事の生産性・効率性の向上」、「オフィスコストの削減」、「優秀な人材の確保、新しいナレッジの獲得」等の効果を評価しており、テレワークを行う労働者の側からも、「仕事の生産性・効率性の向上」、「通勤に関する肉体的、精神的負担が少ない」、「家族との団欒が増える」、「自分の時間がもてる」等の効果を評価しています。また社会的な観点からは「都市問題の緩和」、「地域活性化」、「雇用創出と新規産業の創出」、「地球環境負荷の軽減」等が期待されています。

■課題

テレワークは、労働者の勤務時間帯と日常生活時間帯が混在せざるを得ない働き方であることなど、これまでの労務管理では対応が難しい面もあることから導入をためらう経営者もいらっしゃると思います。厚生

労働省「在宅勤務に関する実態調査」(平成16年)においても、テレワークを実施していない理由として、労働者の労働時間や健康等「労働者の管理が難しい」を挙げる事業主が多くなっています。

また、「労働者の評価がしにくい」などを挙げる経営者も多くなっており、テレワークを行う労働者からも同様の課題が挙げられています。その他にも「テレワークに適した業務が少ない」、「情報セキュリティ面での不安」、「導入コストが高い」等の課題が考えられます。

■まとめ

業務プロセスやマネジメントプロセスの改善、制度面の変更や整備等、テレワーク導入のハードルは決して低いものではありませんが、育児や介護等、労働者の抱える事情が多様化する中、ライフワークバランスを図る上で有効な働き方の1つであり、雇用や優秀な人材確保という面からも、その長所を生かした次世代のワークスタイルとして、経営者と労働者の双方、日本経済の発展にとっても、その普及促進が重要なのではないのでしょうか。

また、その実現を図るうえで、リモートアクセス技術やインターネットVPN技術、アプリケーションやセキュリティの技術など、新規事業という視点からもさまざまな可能性を秘めている「テレワーク」の存在を常に視野に入れておきたいものです。

それでは、テレワークを実践している方の話を最後に。

- ・「○○さん家の旦那さん、会社に行っていないのかしら」と近所の噂になる
- ・通勤などでの移動が少なくなることにより、運動不足になりがちなどの問題が発生するそうです。切実ですね。